

第3回中小研セミナー（2015年10月10日）

第2部 調査研究報告 『アジアにおける都市大阪の魅力』

大阪府商工労働部 大阪産業経済リサーチセンター
主任研究員 福井 紳也

- ◆はじめに
- ◆アジア都市間競争における大阪
- ◆多国籍企業の立地先としてのアジアにおける大阪

◆はじめに

このプレゼンでは、大阪産業経済リサーチセンターで2013、14年度に担当した2本の調査研究を基に報告した。

- ・2013年度調査研究：『アジア主要都市と大阪の都市間競争力比較～企業立地の観点から（基礎調査）～』
- ・2014年度調査研究：『大阪の都市競争力～外資系企業のアジア都市立地戦略調査～』

◆アジア都市間競争における大阪

2013年度調査研究は、主に大阪がアジアの都市間競争に打ち勝つための政策提言を目的とした。

○グローバルな立地競争

競争環境のグローバル化により、大阪の都市戦略は、東京・愛知などとの比較に基づく国内都市間競争から、アジアにおける国際都市間競争へと意識転換が求められている。企業活動が広域化・グローバル化する中で、競合する都市も広域化・グローバル化しており、都市にはグローバルな立地競争という見方が求められている。こ

うした中、特区制度など、アジアとの国際都市間競争を念頭においた政策が目立つ。

○アジア主要都市とは

アジア主要都市とは、いずれも一人当たり GDP でみて、アジアで TOP10に入る以下の都市である¹。大阪から2500km 圏内には、ソウル、上海、台北、北京、香港が含まれる。また、大阪から2500km～5000km 圏には、バンコク、クアラルンプール、シンガポールが含まれる。これらにプラスして、オセアニアの拠点都市であるシドニーと、東京も加えた（図表1）。

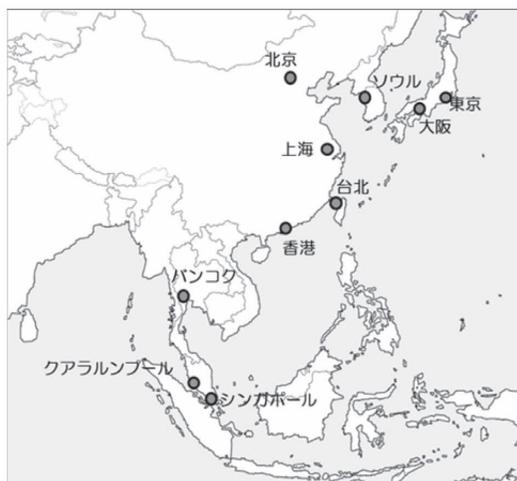
○アジア主要都市の GDP

上記アジア主要都市の名目 GDP を比較してみると、大阪は東京に次ぐ、主要都市中第2位の名目 GDP 額であったが、2007年に上海に、2009年に北京とソウルに、2010年に香港にそれぞれ抜かれている。また、一人当たり名目 GDP でみると、ここでも東京に次いで大阪は、1994年以前は第2位であったが、2004年以降は第6位と、主要他都市に追い抜かれている。

○経済圏

ただし、経済圏単位でみると、大阪－神戸－京都経済圏は、ニューヨーク経済圏

図表1 アジア主要都市地図



（出所）【世界地図 | SEKAICHI ZU】を加工して大阪産業経済リサーチセンター作成。

（注）シドニーは除く。

¹みずほコーポレート銀行（2012）「都市別一人当たり GDP と主観的評価によるアジア各都市比較分析～数字では表せない都市の側面：Mizuho Short Industry Focus」

に次ぐ世界第3位の規模である²。マーケットの大きさという観点では、アジアトップクラスを維持しているといえる。

○大阪の国際都市間ポジション

森記念財団「世界の都市総合力ランキング」で比較すると、大阪は、2013年時点で、全40都市中第23位という位置であり、2014年に発表された同ランキングでは、第26位に下がっている。このランキングを構成する各指標を紐解いていくと、大阪の強み弱みが分かってくる。

一方、都市への立地企業の収益という観点でも比較可能である。イギリス、ラフバラー大学の Globalization and World Cities Research Network (=GaWC) の研究では、都市に立地する自都市の多国籍企業を収益などで評価し都市の力を比較している³。

アジア主要都市間では、東京、北京、ソウルは上位に位置する都市であるが、これ

図表2 大阪の強み弱み

	大阪の強みやリードしている分野		大阪の弱みや課題
インフラ	都市内公共交通の充実	インフラ・ネットワーク	国際航空ネットワーク環境の整備 タクシー運賃
事業展開のメリット	アジア市場への展開の足がかり	企業集積・人材集積・人的ネットワーク	業務提携先が有する人的・企業ネットワーク
	流行に敏感であり、新製品・新サービスに対する競争力が検証できる		グローバル企業等の集積
ビジネス・研究開発環境	ビジネス支援機関の充実	人的ネットワーク	人材確保の難しさ
	人件費、事務所賃料の安さ		研究者の交流機会や外国人研究者の受け入れ態勢
	研究開発費		外国法律事務所の支店設置規制
居住性	特許の登録数	規制・慣行・税等	社会保障費の負担や法定外福利費水準
	住居等確保	経済・地理要因	税負担
	平均余命の高さ		マーケットとしての成長性
	地域コミュニティ	地理的要因	失業率の高さ
安全性	人口当たり医師数	生活環境	外国人学校の整備
	生活の利便性		英語の通じる病院・医師
	災害に対する安全性		外国人に適した生活の質
	社会の安定性		

(出所) 大阪産業経済リサーチセンター作成。

²世界の都市経済圏 LRP ランキングより (Richard Florida et al. (2009) "Global Metropolis: The Role of Cities and Metropolitan Areas in the Global Economy" Martin Prosperity Institute Working Paper.)

³G. Csomós "Global Command and Control Centres (=GCCC), 2006/2009/2012", GaWC Data Set 26

ら3都市を除く都市にフォーカスすると、大阪は香港とともに上位に位置している。

○住みやすい都市大阪

ちなみに、“Best cities ranking and report^{4, 5}”（住みやすさランキング）によれば、大阪は世界70都市中第3位である。世界的にも大阪は住みやすい都市であるといえる。

○都市大阪の強み弱み

各種データ分析からみえる都市大阪の強み弱みをまとめると、図表2のようになる。コスト面での安さや、研究開発環境、居住性や安全性などで強みをもつ。一方で、国際航空ネットワークや人材確保、英語の通じる人材などの面で弱みをもつ。

◆多国籍企業の立地先としてのアジアにおける大阪

2014年度調査では、多国籍企業のアジア立地戦略あるいは、外資系企業の国内立地戦略という観点から、都市大阪について分析した。

○アンケート調査

この調査では、全国の外資系企業にアンケート調査を実施した。結果として252社の回答を得ている。

○BCP

BCPの観点から、日本国内における拠点の分散化について、実施・検討しているか、について尋ねた。実施も検討もしていないという回答が多かったが（146社）、実施あるいは検討という回答もみられた（59社）。実施あるいは検討している企業に対して、拠点分散先の都市を尋ねた。この結果、大阪との回答が最も多かった（27社、46%）。都市大阪は、BCPという観点からの注目度が高いといえる。

○都市別拠点立地

海外親会社が現在設置しているアジア・オセアニア地域における機能別拠点立地都市について尋ねた。シンガポール、香港、東京、上海への立地が目立つが、大阪への拠点立地もみられることが分かった。

⁴このランキングは、“EIU Liveability Index”に空間的要素を加えた“Spatial Adjusted Liveability Index”である。

⁵Economist Intelligence Unit (2012) “Best cities ranking and report”

○重視するマーケット

今後重視するアジアの主要マーケットを尋ねたところ、東京圏（90社）や上海経済圏（78社）との回答が目立ったが、大阪圏への回答も多かった（58社）。

○大阪でのビジネス環境の課題

大阪でのビジネス環境の課題について尋ねると、取引先などが少ない、ビジネスチャンスが少ない、人材確保が困難、国際間アクセスが不便、英語でのコミュニケーションが不安などの回答が多く、図表2でみてきた大阪の弱みと重複する課題が浮き彫りとなった。

○大阪の立地魅力について

最後に、大阪の立地魅力についての設問を設けた。アンケートで提示した12の大阪の立地魅力について、その認知度を尋ねると、関空の24時間運用や主要大学の立地とR&D集積、東大阪地域の中小企業集積などへの回答が多かった。

次に、大阪の立地魅力に対する立地動機を尋ねると、東京に比べてオフィス賃料が安いことや、地方税が最大ゼロとなる特区の制度、本社またはアジア拠点の新規立地に対する補助金制度など、コスト面での回答が多かった。

○大阪のビジネス環境の課題

大阪のビジネス環境の課題をまとめると、取引先企業の立地やビジネスチャンスは、短期間で解決可能な課題ではないが、人材面での課題、国際アクセスや英語でのコミュニケーションなど、政策的に取り組みやすい内容も多くあることが分かった。特に、「人材・アクセス・英語」は、外資系企業やMNEsの立地にとり重要なファクターである。さらに、立地コストが立地動機に与える影響が大きいことから、大阪のオフィス賃料が安いことはPR材料となる。また、地方税最大ゼロとなる特区制度、大阪府の補助金制度は、認知度が低いいため、PR強化が必要であると考えられる。